



現場レポート

シンガポール事務所

職場は、アジア各地。 ～クリアシンガポール事務所駐在員に聞く～

(一財) 自治体国際化協会シンガポール事務所 調査役 鍋岡 崇 (京都府派遣)

アジアにおける地方自治体の活動の充実が期待されるにつれて、現地に活動拠点を置く動きも出てきています。自前で海外駐在事務所を置くとなると、財政・人員体制の面や、現地での手続きなどにおいて、さまざまな課題があります。そこで、クリアでは、「駐在員型職員」制度を設けました。現在、シンガポール事務所に3名、ソウル事務所に1名が駐在しています。この制度は、クリア海外事務所が多様化する自治体のニーズに柔軟に 대응する取り組みとして、導入が検討され、施行されているものです(下図参照)。

本コーナーが「海外事務所だより」から「現場レポート」へと、活動現場を意識したものに変わりましたので、今回は、ダイナミックにアジア各国を飛び回るシンガポール事務所の駐在員3名の現場の生のお話などを座

談会形式で紹介させていただくこととします。

- 司会 鍋岡 崇 調査役 (京都府・派遣1年目)
- ゲスト 鈴木 敦 駐在員 (山形県・駐在3年目)
- 福田 修一 駐在員 (長野県・駐在2年目)
- 岡田 理花 駐在員 (熊本県・駐在1年目)

アジア各地を飛び回る駐在員

司会 駐在員の皆さんは、シンガポールにとどまらず、業務スケジュールを見ても、本当にアジア各地を飛び回っているという印象です。そんな中、お集まりいただいて、ありがとうございます。早速ですが、どれくらいの頻度でどの辺りに出張されているのですか？

		所長補佐 (通常の派遣職員)	駐在員型職員
(1) 派遣職員	身分など	自治体職員兼クリア職員 (ビザはクリア職員として取得、名刺もクリア職員用名刺を使用)	
(2) 事務所機能	執務室	ほかの職員と一体 (個室なし)	
	共用スペース・機材・備品など	共用	
(3) 業務関係	総務・管理的事務	クリアが実施 (自治体からの派遣職員および現地職員で分担)	
	現地職員の雇用	5名の現地職員を事務所全体で活用	
	従事業務	原則としてクリア業務に従事	主として派遣元自治体の業務に従事 (管轄地域も、派遣元自治体が決定)
	情報共有	現地における人的ネットワーク、出張報告・会議録などの諸情報を共有	
(4) 経費負担	人件費	派遣職員の給与・海外勤務手当は派遣元の負担(クリアからの人件費補助あり)	派遣職員の給与・海外勤務手当は派遣元の負担
	事務所家賃	クリア負担	専有部分相当の家賃を派遣元自治体が負担
	共用スペース・機材・備品など	クリア負担	共用部分の按分相当の家賃を派遣元自治体が負担
	業務関係経費	クリア負担	以下について、派遣元自治体が負担 ・通信費、消耗品費など諸経費の相当分 ・管理的事務代行に係る事務費相当額 ・秘書・総務職員の按分相当の人件費 ・派遣元自治体の業務に係る活動費

図 通常のクリア派遣職員と駐在員型職員の相違点



執務室内における座談会の様子
(左から時計回りに岡田、福田、鍋岡、鈴木)

鈴木 駐在3年目になりますが、国外出張は1年目が12回、2年目が14回でしたので、平均すると月1回程度ですね。県産品の取引拡大やインバウンドの観光誘客を目的に、タイのバンコクとマレーシアのクアラルンプールに行くことが多いです。最近は円安傾向が続いていますので、限られた予算の中でいかに効率的に出張するかを考えなくてはなりません。

福田 私は2年目です。昨年度はタイへ6回、インドネシアへ5回、マレーシアへ4回、ベトナムとインド、日本へ1回ずつの計16回で合計84日間、国外へ出ていました。今年度は、4、5月で4回ですが、年間では20回以上出張する計画です。出張は好きなので、多くても良いのですが、一時期に集中して非常に繁忙になってしまうことがあるのが悩みです。また、経費節減のため、LCC（ローコストキャリア）も使います。

岡田 私は本年4月に着任して以来、月に1、2回の頻度で、タイやインドネシアに出張しています。3月まで在籍していた前任の駐在員は、昨年1年間でインドネシアやマレーシア、香港に合計32回海外出張したと聞いて、私も頑張らねば！と思っています。

司会 やはり、月1、2回は、シンガポールからアジア各国に飛び回ってらっしゃる。いつも誰かしらいないですからね。職場は、アジア各地にあります、という印象です（笑）

駐在活動の進め方

司会 ところで、皆さんの出張は、派遣元の県からの指示があつたのですか？それとも、駐在員自らの判断でどんどん営業に出ることもあるのですか？

岡田 県から指示がある場合と自ら発案する場合の両方がありますよ。県の関係部署は、用件に応じて複数あるので、各部署と日頃から、国際電話やメールで、風通しの良いコミュニケーションや意見交換に努めています。あと、バイヤーから県産品の引き合いがあつたときには、県内の事業者さんと直接連絡を取って、バイヤーへ商品サンプルを届けるということもやります。

福田 私の場合は、工業、農産物、観光の各関係3部局と連絡を取り合いながら、現地で行われる展示会への出展支援や海外出張への同行支援をすることが多いです。もちろん、駐在員の裁量に任されている部分が多いので、独自に現地進出企業を訪問して情報交換したり、訪日観光市場を開拓するための商談会へ参加したりすることもあります。

鈴木 うちも同じような感じですね。県産品の取引拡大にしろ、観光誘客にしろ、いずれにしても、県のみが主体となるわけではなく、目的は、県内の企業などが海外展開を図るためのきっかけづくりです。だから、出張などで集めた情報をいかに効果的に地元へ伝えて機運の醸成につなげていくのが、きわめて大事ですね。

その関連で言うと、タイやマレーシアで、新しい商品の通関に思いのほか時間がかかり、プロモーション前日まで商品が届かずにやきもきした経験があります。日本と同じ感覚で取引を進めようとするのは失敗の原因となりますので、県内企業の皆様には「現地・現物・現実」をしっかりと自分の目で確かめることが大事だと伝えるようにしています。

司会 なるほど、派遣元の指示に基く部分ばかりではなく、ある程度の裁量をもって現場の情報を集めたり、人間関係を作っていくっていいですね。そして、それを地元へ還元していく。「駐在員」という言葉のイメージにしっかり当てはまる活動状況ですね。

鈴木 急ぎの案件のときは、メールではなく電話でやり取りするのですが、切羽詰まっている場合は、早朝でも携帯電話を鳴らされます。しょっちゅうですよ（笑）

司会 時差の影響もありますね。シンガポールやマレー



シアでは1時間、タイやインドネシアでは2時間、と微妙な時差があるので、日本側とのコミュニケーションにも影響してくるのですね。

アジアの多様性と駐在活動

司会 さて、アジア各国では、文化、言語、嗜好、さらには商習慣などが多様なので、現地での活動も何かと大変だと思います。日本で仕事をする場合と比べて、こういうところが難しい！というエピソードはありますか？

福田 イベントの開始が30分遅れるのは当たり前。さまざま交通渋滞のため、空港やホテルから余裕を持って出発してもなお時間通りに到着できない。雨が降ったらお客さんが来ない…などなど、国によって色々です。こちらへ来てから、気を長く保てるようになったような気がします…（一同笑）

鈴木 特に、ジャカルタは想像を絶する渋滞ですね。以前、工業団地に視察に行った時は、雨季だったせいもありますが、30km先の視察地まで4時間かかり、参加者の皆さんがへとへとになってしまい、視察どころではなかったことがあります。

あと、インドネシアで県産の大吟醸を取り扱ってもらおうと商品の提案を行った時のこと。輸送は常温で行うというインポーターがほとんどで、一番信頼できそうなところですらバンの車内のエアコンを効かせる程度がやっとなので、驚きました。高温多湿な環境なので、商品の品質保持の観点からは、厳しい市場だなあと感じました。

司会 具体的なお話、ありがとうございます。宗教的な文化・習慣の違いについて、何かエピソードはありますか？

岡田 私の経験では、ムスリムの男性は金曜の午後にお祈りをする習慣があるので、平日なのにアポが取れない！ということがありました。

福田 県の観光PRイベント会場でお菓子を配ると、「これはハラルに対応しているのか？」と必ず訊かれて困りました。

司会 現地ならではのエピソードですね。アジアの多様性を受け入れて活動していかなければならないわけですから、タフでなければ勤まりませんね。

クレアシンガポール事務所駐在員のメリット

司会 本日は、駐在員の皆さんが、アジア各地を飛び回って活躍されている様子が改めてよくわかりました。最後に、クレアシンガポール事務所の駐在員として海外赴任してよかったと思うことはありますか？

福田 通常の地方自治体単独の事務所とは異なり、駐在員が3人集まっているので、すぐに情報交換できますし、出張中で参加できないイベントの内容も入手できます。さらに、事務所主催の研修も受けられるので、自分のレベルアップも図れます。

岡田 クレアシンガポール事務所の持っている人脈や政府関係機関などとのネットワークを生かせる点が優れていると思います。それと、総務事務は、事務所で一括して処理してもらえるので、効率的に駐在員業務を行えることも良い点です。

鈴木 やはり、同じ立場の駐在員が身近にいることは大きなメリットです。それまで接触したことがない関係者に対するアポイント取得も比較的容易になりますし、日々の活動でお互いに得た情報を交換することで、より確度の高いものにすることができます。それが新たな発見につながる場合もあります。さらに、事務所本来の業務で収集された情報は、なかなか駐在員単独では得がたいものが多いので、非常に助かっています。同じ事務所内に席を置く有利な点だと思います。

福田 生活面でも、困った時には事務所の皆さんのアドバイスやサポートを受けられます。良いことづくめですね。

司会 皆さんに大変有意義に当事務所を活用いただいているとのこと、どうもありがとうございました。

クレアシンガポール事務所では、来年度も駐在員型職員を募集します。

駐在員型職員の派遣制度についてのご質問などがありましたら、クレア本部企画調査課またはシンガポール事務所にお気軽にお尋ねください。